

通告1番目、7番、福岡進二議員、発言席から一問一答方式で質問をお願いいたします。

福岡進二議員。

○福岡議員 おはようございます。7番、福岡進二です。議長の許可を得ましたので、通告に従い一問一答方式で一般質問を行います。

今議会では、高齢者の生き生きとした生活についてと、生活保護の現状についての2点お伺いいたします。

最初に、高齢者の生き生きとした生活について質問を行います。

当市においては、令和6年度から令和8年度までの3年を計画期間とする第9期岩出市高齢者福祉計画・岩出市介護保険事業計画を策定され、その計画に基づき事業を進展していただいていると思います。高齢者が生き生きとした生活を送ることは、介護保険の理念である尊厳の保持や自立支援、重度化防止を図ることができ、ひいては高齢者みんなの笑顔があふれる健康で元気なまちが岩出市につながっていると考えています。生き生きとした生活を送る大事な要素の1つとして、地域の活動に参加することにより、コミュニケーションを図りながら運動を行える、げんき体操自主グループ及びシニアエクササイズ自主グループの活動は大変有意義なものであると考えます。

そこで3点お尋ねいたします。1点目として、この計画での自主グループの令和7年度の数値目標は、それぞれ43グループで421人、20グループで255人となっておりますが、現在の介護予防事業での自主グループ数は、また参加人数の状況はどのようになっているのか、お伺いいたします。

次に2点目として、今年度の敬老会事業についてお伺いいたします。

同計画内において高齢者を敬愛する気持ちをより一層高め、長寿を祝うことを目的とした敬老会を実施しているとあり、コロナ禍の令和2年度、令和3年度、令和4年度は中止となりましたが、令和5年度以降、毎年改善を重ね実施していただいていることに敬意を表したいと思います。

そこで、令和6年度の実績数は、令和6年度の成果説明書において、対象者8,042人中366人が出席したとなっておりますが、令和6年度と比較して、本年度の実績について、またお弁当の申込数をお伺いいたします。

次に3点目として、70歳という節目で何かできることはないかという点をお聞きしたいと思います。

70歳の節目は古希と言われ、長寿をお祝いします。市民の方から70歳で何か申請

すれば受けれる事業はないかということを探ねられました。隣の和歌山市では、70歳以上の方に元気70パスを交付しています。元気70パスは、路線バスや市営駐車場の割引、また公衆浴場割引で利用できる回数券があると聞いています。

そこで、市の事業として、節目の70歳の方に対し、申請すれば受けられる事業はあるのか。また、ない場合は何か考えていることはあるのか、お伺いたします。

○玉田議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○松本生活福祉部長 おはようございます。福岡議員ご質問の1番目、高齢者の生き生きとした生活についてお答えいたします。

まず1点目、介護予防事業での自主グループ数は、また参加人数は、につきましては、岩出げんき体操が32グループ、424人、シニアエクササイズが18グループ、253人です。第9期岩出市介護保険事業計画における令和7年度の数値目標と比較いたしますと、グループ数は、岩出げんき体操、シニアエクササイズともに下回っておりますが、参加人数についてはほぼ同じとなっております。

続いて2点目、今年度の敬老会事業の内容についてですが、敬老会実施、敬老お祝い品として、お弁当または食のクーポン券の配布、また85歳以上の方には、敬老祝い金として、商工会の商品券をお渡しいたしました。今年度の敬老会は、9月15日の敬老の日に市民総合体育館で開催し、対象者は昭和26年12月31日以前生まれの数え年75歳以上の方で、7月1日の基準日時点で8,318人でした。そのうち敬老会の参加人数は464人で、昨年度と比較しますと98人の増となっております。また、お弁当の申込人数は1,247人で、昨年度と比較しますと214人の減ですが、食のクーポン券を受け取る方がそれ以上に増えています。

続いて3点目、70歳という節目で何かできることは、についてにお答えいたします。

本市においても、以前は敬老会の対象年齢を古希の70歳としておりましたが、現在は平均寿命や健康寿命の延伸により、70歳は依然として、社会、地域で活躍される、言わばまだ若い世代と言われるようになってきました。このような状況もあり、平成26年度から敬老会の対象年齢を段階的に75歳へ見直し、後期高齢者となる時期を1つの区切りとして事業を実施してきた経緯がございます。

県内の市に70歳以上に特化した事業の実施状況を確認したところ、福岡議員のご質問にもございました和歌山市の元気70パスと、和歌山市、紀の川市の70歳以上を対象にした貴志川線70おでかけ回数券のみでございました。バスの割引については、

本市では既に65歳以上の方に岩出市巡回バスに無料で乗車できるあいあいカードがあります。公衆浴場の割引については、和歌山県老人クラブ連合会にゆったり会という優待制度があり、カードの提示で県内の入浴・宿泊・温泉などの契約施設で割引が受けられます。

これらのことから、70歳を迎えられる皆様に対するお祝いの気持ちは変わりませんが、現時点では新たな節目事業は設けず、あいあいカードの発行や、介護予防、高齢者交流会などの各種事業、また70歳から医療費の自己負担が2割になる高齢受給者証の交付など、現行の各種サービス等を有効にご活用いただければと考えております。

今後も高齢者が生きがいを持って暮らせるまちづくりに努めてまいります。

○玉田議長 再質問を許します。

福岡進二議員。

○福岡議員 2点について再質問を行います。

まず1点目として、自主グループについて、計画よりグループ数は下回っていて、参加人数は計画とほぼ同じということですが、参画を促すためにどのような啓発等の活動を考えているのか、お伺いいたします。

次に2点目として、敬老会参加者は、昨年度と比べて参加者数は増えていることですが、ここ数年、参加者が減っているように見受けられます。参加者が減っている理由について市の見解は。また、来年以降、どのような改善策を考えているのか、お伺いいたします。

また少し気になっていることとして、職員が対象者の家庭を訪問していることについてです。特殊詐欺が増えている昨今、訪問されることに対して抵抗感を感じている現状もあり、一部の住民からは、職員がわざわざ訪問することに疑問を感じているとの声も聞きます。職員が高齢者を見守るという意義は分かるのですが、郵送で返還となり、連絡がつかないお宅を訪問するなど、改善は可能であると思いますが、その辺りはどのように考えているのか、お伺いいたします。

○玉田議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○松本生活福祉部長 福岡議員の再質問にお答えいたします。

まず1点目、実施グループについて、参加を促すためにどのような啓発活動とか考えているのかということについてですが、フレイル予防は健康寿命の延伸に重要であることから、本年度は、運動習慣のない方や、自主グループに参加していない

方を対象に、市内10か所でフレイル予防研修会を実施しています。研修会後には、新たな岩出げんき体操グループの立ち上げや、既存のグループへの新規参加が見られました。今後は10月から、配置された理学療法士がグループを訪問して助言・支援を行い、活動の継続を伝えるとともに、研修会や教室で自主グループの紹介や交流の機会を設け、新たな高齢者の参加促進を図ってまいります。

次に2点目、敬老会の参加者が減少している理由の市の見解と来年度以降の改善策は、ということでしたのですけども、敬老会の参加者についてですが、コロナ禍前の令和元年度の敬老会の会場への参加率は13.57%でありましたが、令和7年度の参加率は、昨年度と比べますと若干増加しているものの、5.58%となっています。参加者が減少している理由は、コロナ禍を境に、高齢者の生活行動が変化し、外出を控え、人混みを避ける傾向が強まっていることが要因ではないかと考えております。

改善策としましては、コロナ禍後に敬老会の対象となった75歳から79歳までの参加率が、コロナ禍前から対象であった81歳、82歳の参加率より低くなっていることから、今年度は敬老会実行委員会において、これまで漫才が中心だった演芸から歌謡ショーを実施するなど、年齢等も考慮しながら内容を検討していただきました。来年度も参加者増に向け、対象者の年齢を考慮し、趣味・趣向に合った内容案を考え、実行委員会において実施内容を検討してまいります。

また、特殊詐欺が増えている昨今、職員が対象者宅を訪問にすることについてどう考えているのかということにつきましては、職員が訪問することは、敬老会の案内だけでなく、訪問による安否確認や情報把握の意味合いも兼ねております。毎年できるだけ同じ地区を訪問するようにしているため、高齢者と顔なじみになり、職員に安心して日常生活等の話をする方もいらっしゃいます。近年、特殊詐欺などの心配もありますので、訪問に際しては、職員は必ず名札を着用するとともに、訪問を拒否される場合は、無理な説明をせず、チラシ等のみを郵便受けに投函するよう注意を促しております。

職員が訪問する数少ない機会の1つとして、高齢者福祉の観点から、当面の間は職員による訪問を実施してまいりたいと考えております。

○玉田議長 再々質問を許します。

(なし)

○玉田議長 これで、福岡進二議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いします。

福岡進二議員。

○福岡議員 次に2番目、生活保護の現状について質問を行います。

この質問につきましては、コロナ禍の令和2年に同じ内容で質問を行っています。当時、コロナ禍の影響により、相談件数が4月、5月で71件の1か月平均35.5件と倍増していました。また、申請件数については、5月末で310世帯と横ばいであると答弁をいただきました。コロナ禍は脱却しましたが、現在はお米を含むあらゆる物が物価高となっています。政府は賃金アップを掲げていますが、全市民まではなかなか浸透していないのが実情であると思います。

そこで、2点お尋ねいたします。1点目として、令和7年の現在、当市の被保護世帯数及び被保護者数並びに昨年度と本年4月からの生活保護相談数及び生活保護申請件数の推移は、また物価高騰は影響しているのか、お伺いいたします。

2点目として、ケースワーカーの資格別の人数及びケースワーカー1人当たりの被保護世帯数をお伺いいたします。

○玉田議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○松本生活福祉部長 福岡議員のご質問の2番目、生活保護の現状について、にお答えいたします。

まず、1点目の被保護世帯数及び被保護者数の推移について、過去3年間の3月時点の数値でお答えいたします。

令和4年度、356世帯、405人、令和5年度、366世帯、412人、令和6年度、380世帯、429人となり、いずれも年々増加しております。

次に、生活保護相談件数及び申請件数の推移についても、過去3年間の3月末時点で申しますと、相談件数が令和4年度、144件、令和5年度、156件、令和6年度、191件、申請件数が令和4年度、72件、令和5年度、83件、令和6年度、101件となり、こちらも増加しております。

なお、令和4年度から令和6年度までの3年間における国、県、市の非保護世帯数の増加率を比較いたしますと、国は0.0003%の増、僅かな増で、県は0.9%の増、市は6.7%の増となっており、国、県に比べ市の増加率が大きい状況となっております。これは本市の高齢化の進展によるものと考えられ、今後も加速化すると見込まれていることから、それに伴って被保護世帯数も増加すると推察されます。

また、被保護世帯等の増加に物価高騰は影響しているのかとのことですが、生活困窮に陥る要因は様々であり、物価高騰の影響がないとは一概には言えませんが、

その背景には、先ほど申しましたように、高齢化の進展があり、独り暮らしの高齢者の増加が大きな要因の1つであると考えております。

次に、2点目のケースワーカーの資格別人数については、現在、生活保護係は査察指導員が1名、ケースワーカーが4名の計5名体制で対応しております。資格については、査察指導員とケースワーカーの計5名中4名が社会福祉主事の資格を持っており、残り1名につきましても、現在、社会福祉主事の通信課程を受講中となっております。

また、ケースワーカー1人当たりの担当ケース数についてですが、令和7年10月時点での岩出市の被保護世帯数は394世帯であり、ケースワーカー4人で割ると、1人当たり98.5世帯となります。

○玉田議長 再質問を許します。

福岡進二議員。

○福岡議員 1点再質問を行います。

令和2年時は、ケースワーカーの担当数、1人当たり77.5世帯という答弁をいただいております、改善を期待していましたが、現状は98.5世帯ということでした。ケースワーカー1人当たりの担当件数が、社会福祉法の標準数80世帯を超えていますが、生活保護世帯が増加する中で、今後、人員体制をどのように考えているのか、お伺いいたします。

○玉田議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○松本生活福祉部長 福岡議員の再質問にお答えいたします。

令和2年時は、ケースワーカーの担当数が1人当たり77.5世帯ということだったんですけれども、今は社会福祉法の標準数80世帯を超えているということで、今後、人員体制をどのように考えていくのかとのことでしたけれども、被保護世帯の増加に伴い、世帯が抱えるニーズは多様化、複雑化しており、ケースワーカーには、きめ細やかなケースワークが求められる状況となっております。

現状においては、ケースワーカーが経験を重ねることで資質が向上しまして、今現在の業務を遂行できていると考えております。しかしながら、社会福祉法の標準数である80世帯を超えていることは、改善が必要であると認識しておりますので、今後は標準数の確保を目指し、ケースワーカーの増員を検討してまいります。

○玉田議長 再々質問を許します。

(な し)

○玉田議長　これで、福岡進二議員の２番目の質問を終わります。

　　以上で、福岡進二議員の一般質問を終わります。